

2022年度
(2023年3月期)
決算補足説明資料

2023年5月9日
株式会社テセック

FY2022は円安、税効果が利益を押し上げ

- ・ 売上16%増。純利益は3割増で22年ぶりに最高益更新
- ・ 堅調な受注が続くも部材調達難が解消せず長納期化

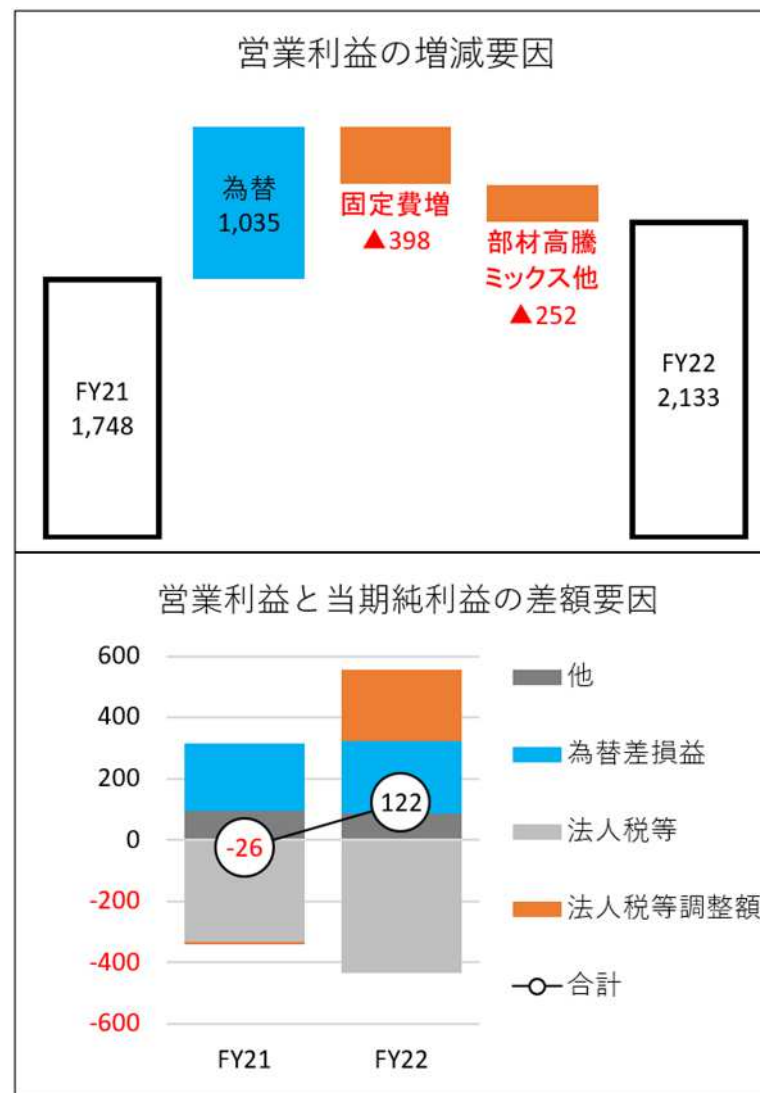
FY2023は増益要因剥落で増収減益予想

- ・ 受注残、事業環境継続を前提に5%の増収を見込む
- ・ 円高想定、成長投資等により25%の営業減益を見込む

業績推移

- ・ 受注は21%減、売上は16%増。円安がコスト増を吸収し営業利益は22%増
- ・ 為替差益、法人税等調整額()も加わり、純利益は22年ぶりに最高益更新

百万円	FY21	FY22	対前期	
	通期	通期	増減額	増減率
売上高	7,512	8,743	1,231	16.4%
ハンドラ	3,978	4,660	682	17.1%
テスト	2,124	2,620	495	23.4%
パーツ等	1,409	1,462	53	3.8%
営業利益	1,748	2,133	385	22.0%
営業利益率	23.3%	24.4%	-	-
経常利益	2,065	2,513	447	21.7%
当期純利益	1,722	2,255	532	30.9%
米ドル為替レート(円)	110.6	133.6	-	-
受注高	10,813	8,585	▲2,228	▲20.6%
受注残	6,200	6,042	▲157	▲2.5%
総還元性向	26%	35%		

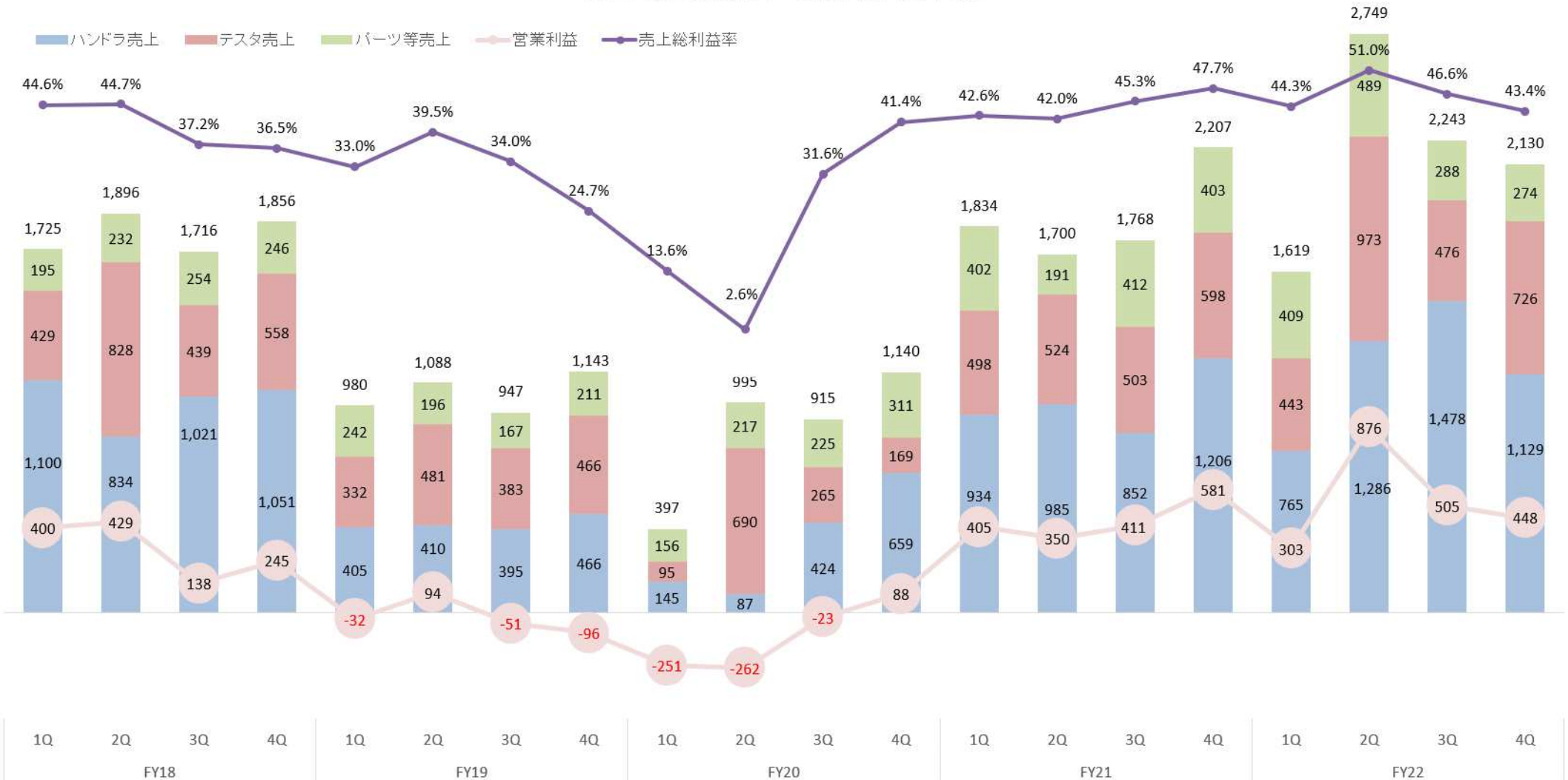


業績推移 (四半期)

- ・ 売上は出荷タイミングにより変動するが、部材調達難のなか高水準で推移
- ・ 利益はモデルミックスにより変動する他、3Q以降は部材高騰の影響も発生

売上・売上総利益率・営業利益 (四半期)

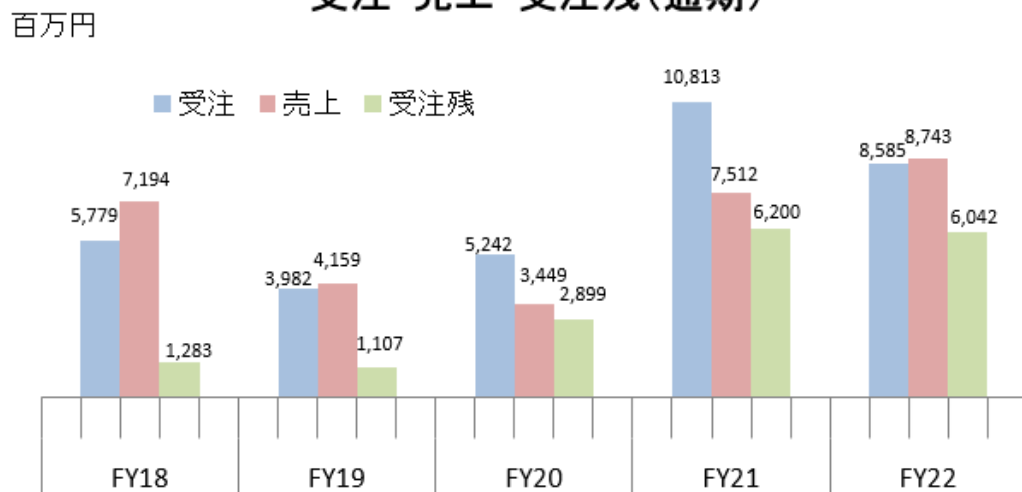
百万円



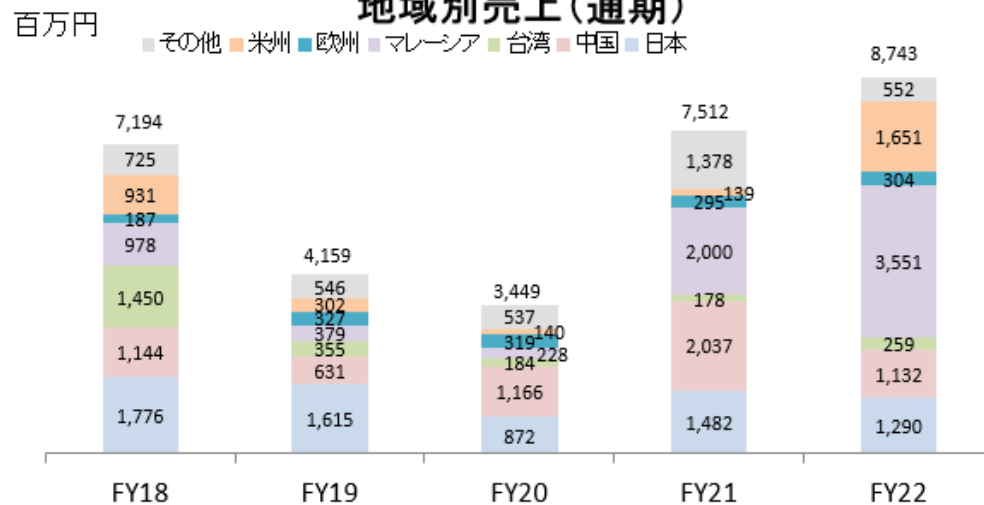
受注高・売上高・受注残高

- ・ 受注は前期ほどではないが概ね堅調に推移。受注残は60億円と高水準
- ・ 売上は87億円に伸長。製品別ではハンドラ53%、テスタ30%、パーツ等17%

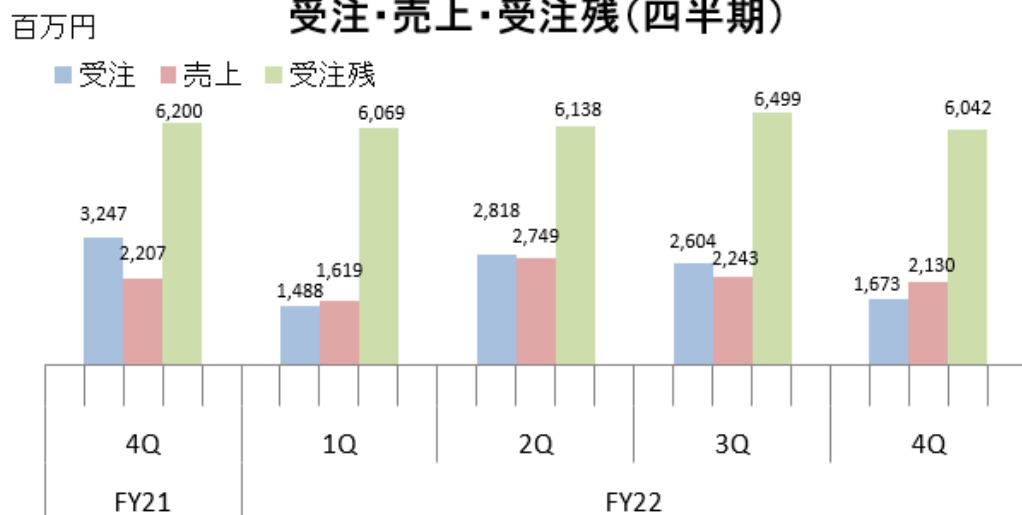
受注・売上・受注残(通期)



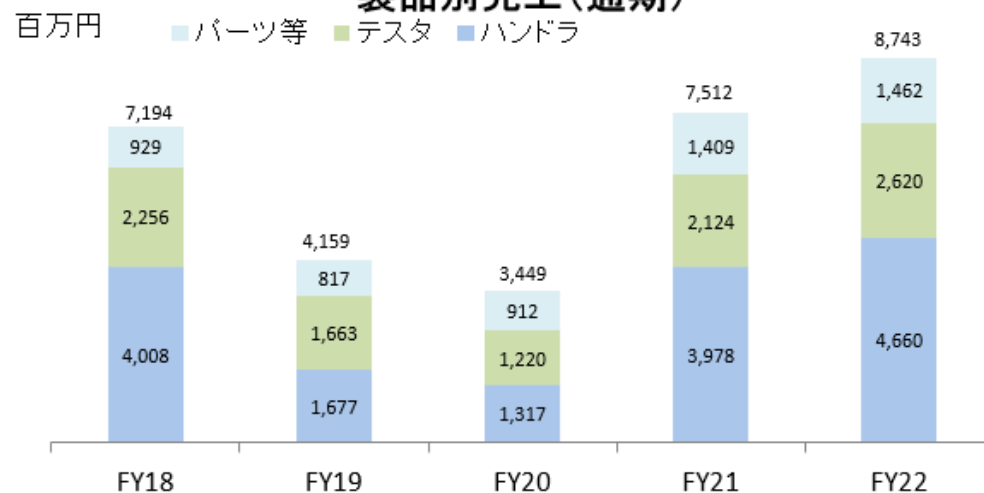
地域別売上(通期)



受注・売上・受注残(四半期)



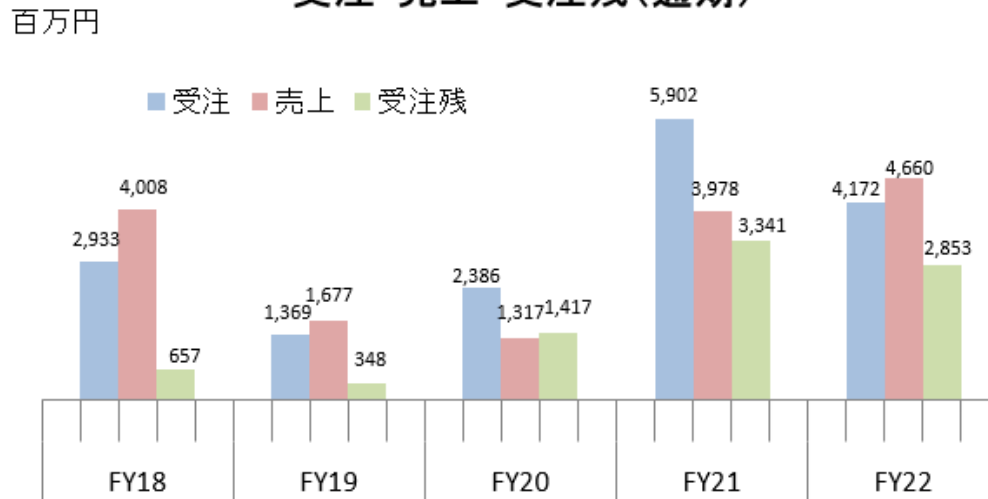
製品別売上(通期)



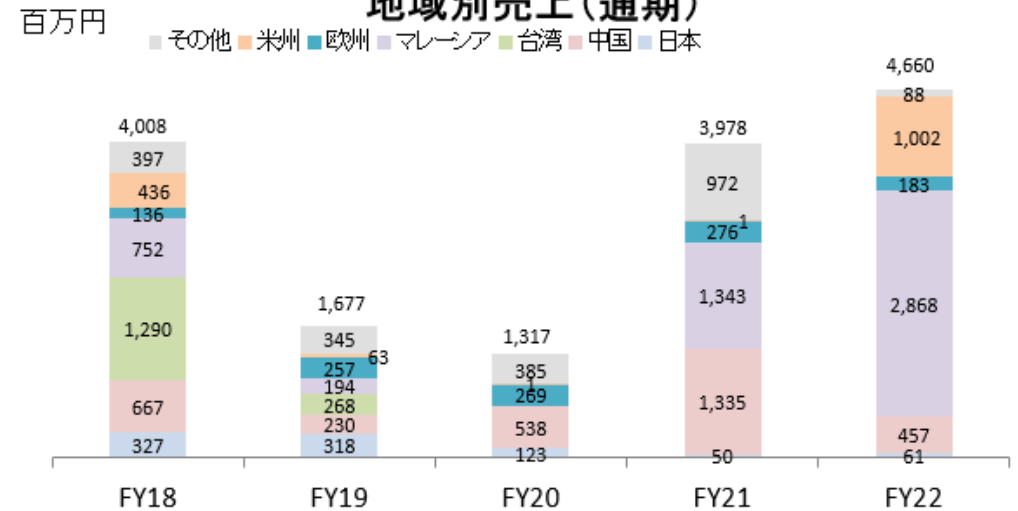
受注高・売上高・受注残高 (ハンドラ)

- ・ FY20下期以降、大手海外半導体メーカーの投資が概ね高水準で継続
- ・ 地域別売上は、IDM向けを中心にマレーシアが6割、米州が2割を占める

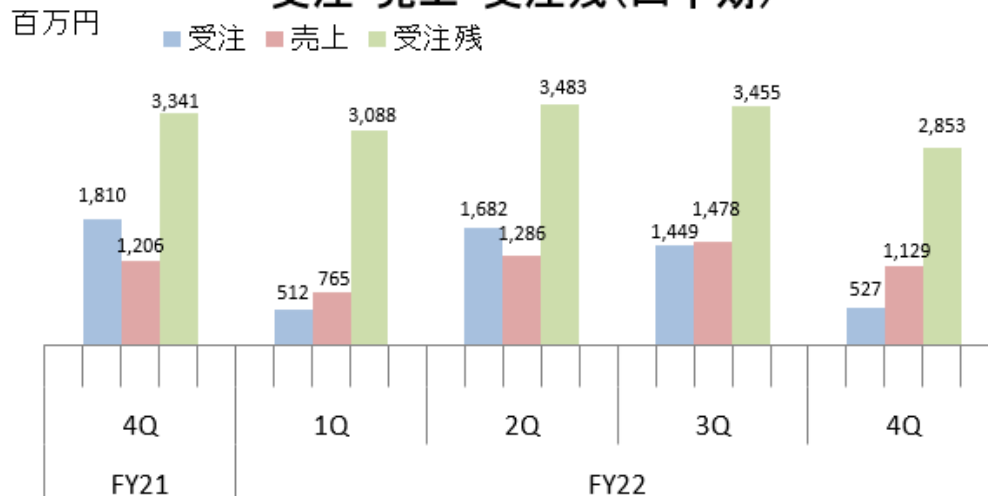
受注・売上・受注残(通期)



地域別売上(通期)

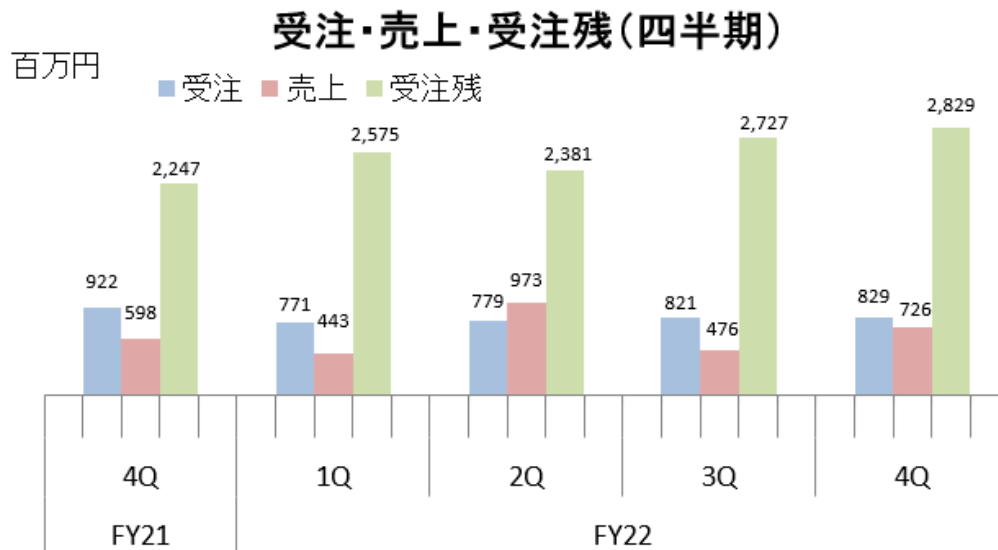
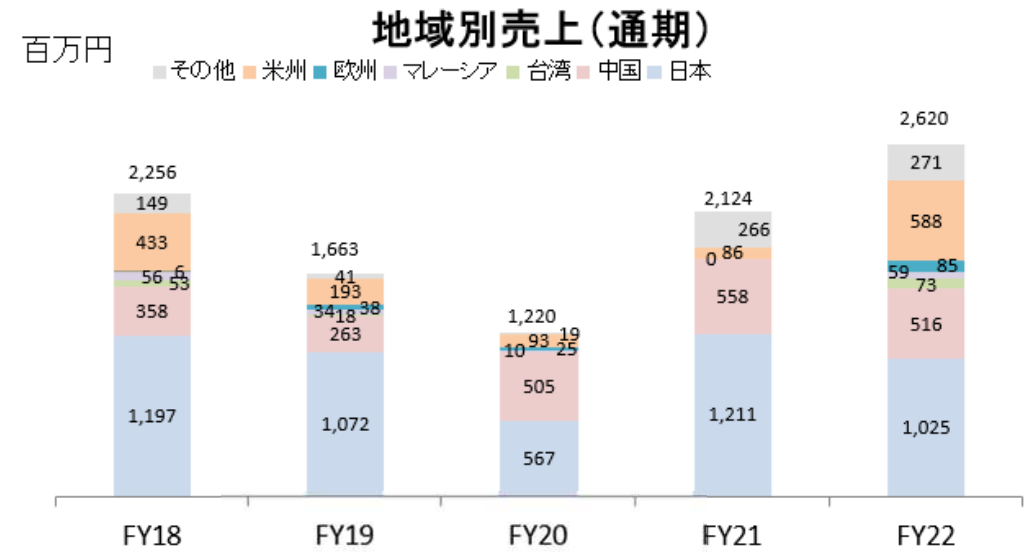
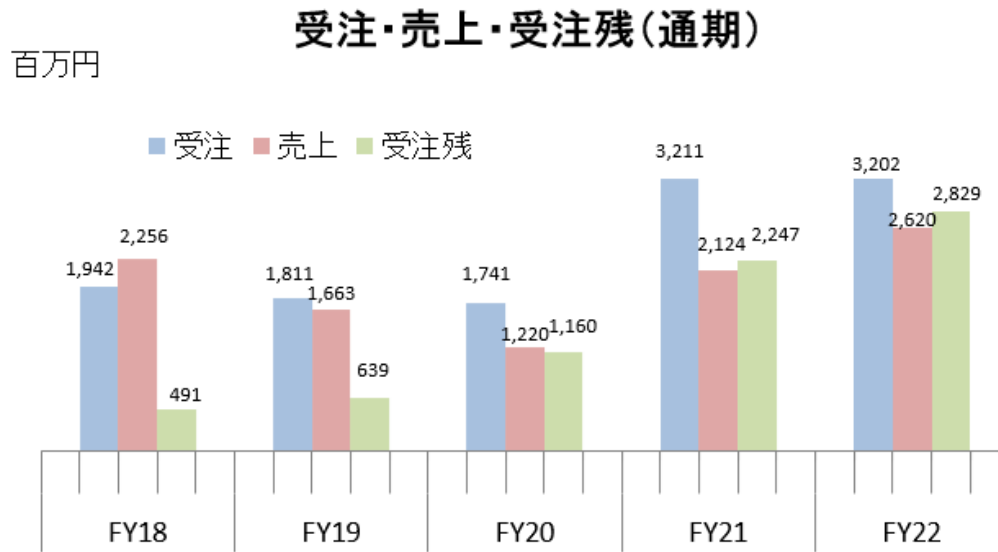


受注・売上・受注残(四半期)



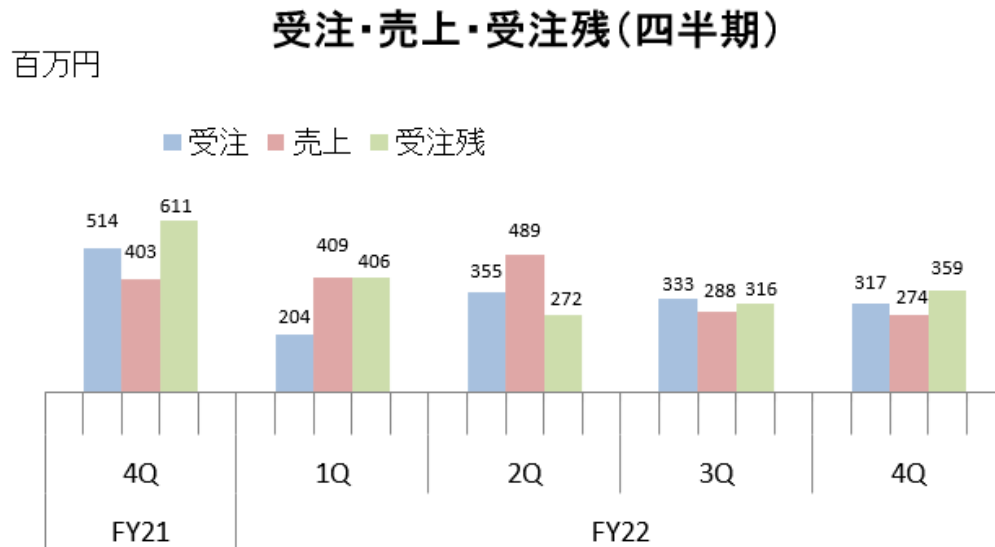
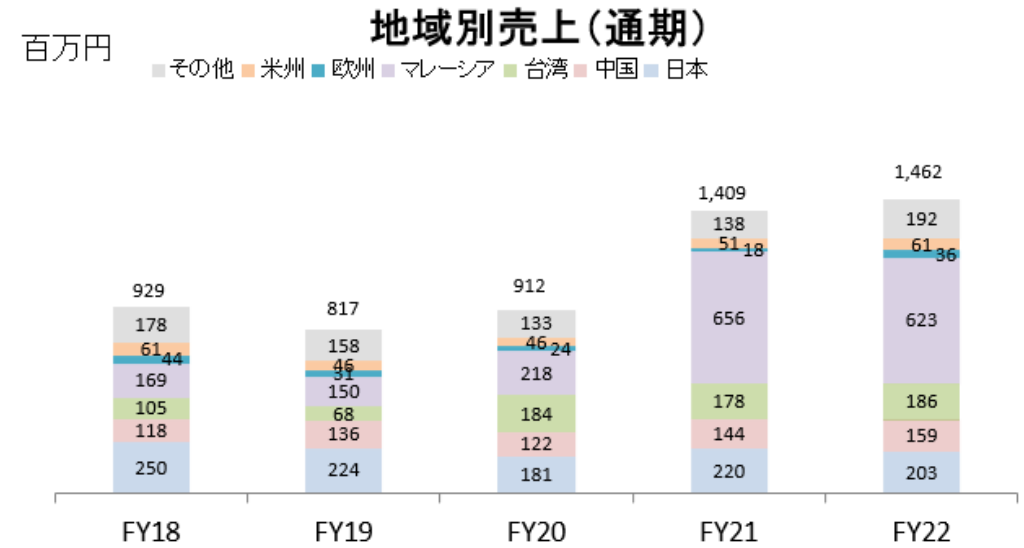
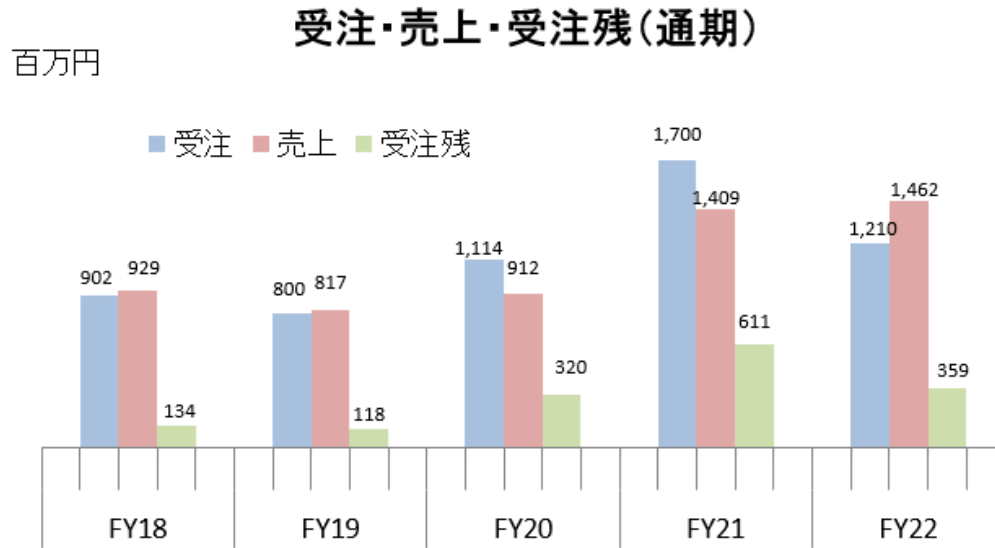
受注高・売上高・受注残高 (テスト)

- ・ 旺盛な引合が継続するなか、部品調達難から納期要因による失注も発生
- ・ 地域別売上は国内、中国の他、FY22はハンドラとのセット販売で米州が3割



受注高・売上高・受注残高 (パーツ等)

- ・ ハンドラ改造用チェンジキットの大量受注が一服
- ・ 主力ハンドラの既納入地であるマレーシアを中心に売上が拡大



パーツ等には、以下の内容を含みます。

< 保守部品の販売 >

- ・ ハンドラ関連 ... チェンジキット、測子等の消耗部品
- ・ テスタ関連 ... リレー、オペアンプ、トランジスタ等

< サービスの提供 >

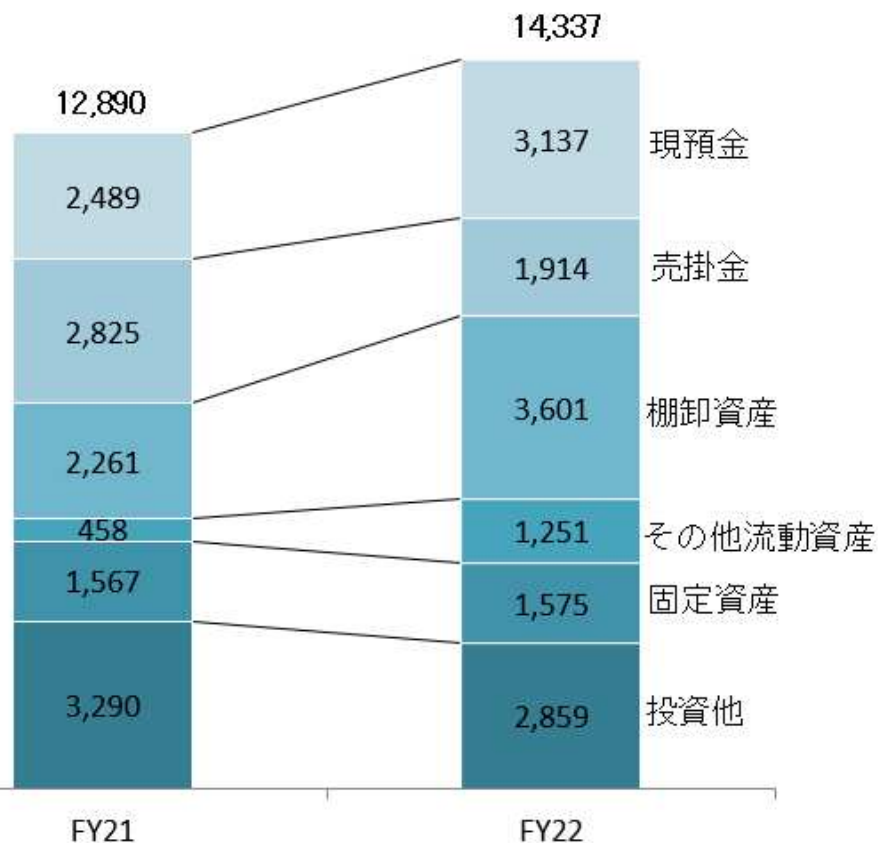
- ・ オーバーホール ... リレー等、消耗部品の定期交換
- ・ テスタ校正 ... ISO9001準拠の校正作業、証明書の発行

貸借対照表

- ・ 受注残の増加、長納期部品の確保を背景に、棚卸資産は過去最高水準
- ・ 売掛金の回収が進み、現預金が増加

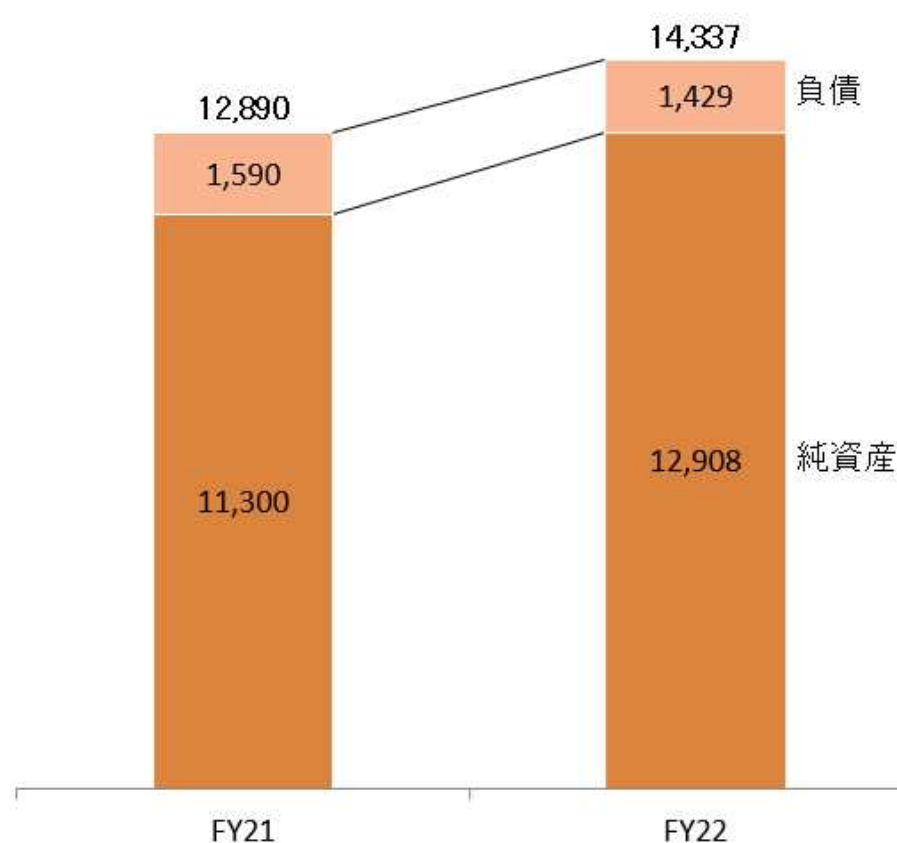
資産

百万円



負債純資産

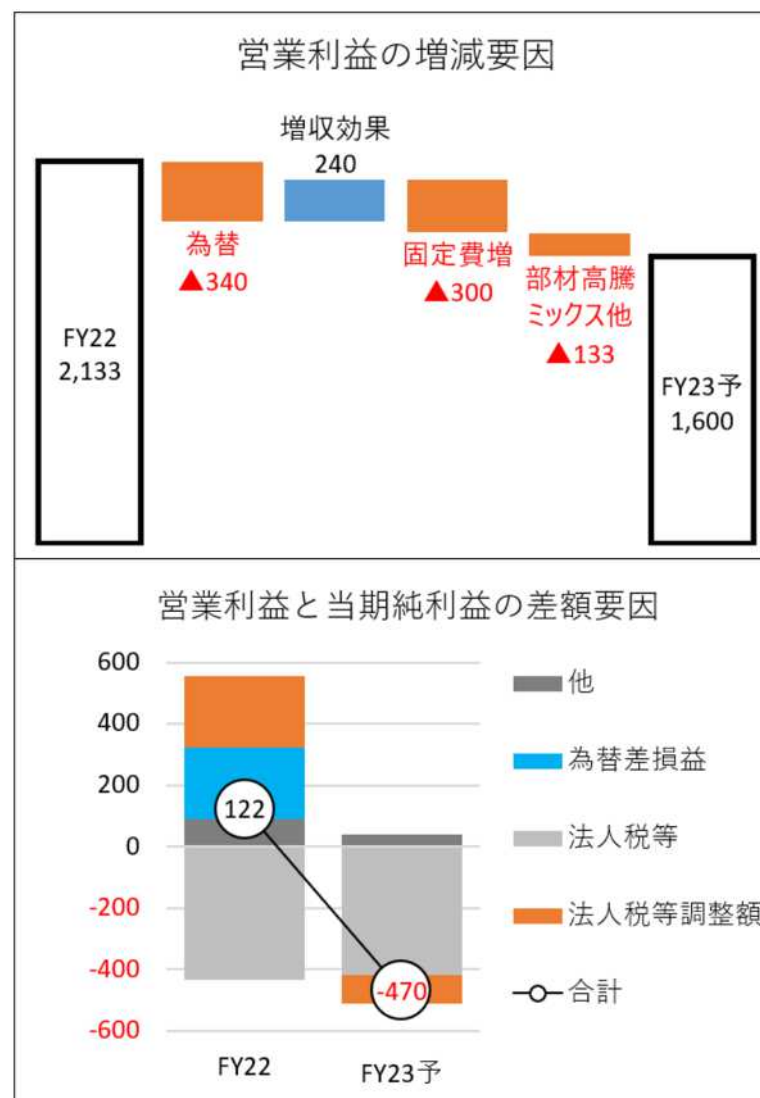
百万円



業績予想

- ・ 事業環境の継続を前提に増収を見込むも、円高想定、コスト増等で営業減益
- ・ 為替差益、税効果剥落、繰越欠損金消滅に伴う税負担増により純利益半減

百万円	FY22	FY23予	対前期	
	通期	通期	増減額	増減率
売上高	8,743	9,200	456	5.2%
ハンドラ	4,660	5,000	339	7.3%
テスタ	2,620	2,800	179	6.9%
パーツ等	1,462	1,400	▲62	▲4.3%
営業利益	2,133	1,600	▲533	▲25.0%
営業利益率	24.4%	17.4%	-	-
経常利益	2,513	1,640	▲873	▲34.8%
当期純利益	2,255	1,130	▲1,125	▲49.9%
米ドル為替レート(円)	133.6	125.0		
総還元性向	35%	35%		



FY22 ~ 24中期計画 (Enjoy2.0) の進捗状況

- ・ FY22は部材調達が売上拡大のボトルネックとなる一方、円安が利益を押し上げ
- ・ 決議済みDX投資5億円はFY23以降。株主還元は7.8億円(総還元性向35%)

		中期目標	FY22	FY23予	(億円)
売上高		100	87	92	
	ハンドラ	55	46	50	
	テスタ	30	26	28	
	パーツ等	15	14	14	
営業利益		25	21	16	
		3年投資枠	FY22	FY23予	
研究開発			3.4	5.0	
基盤変革			1.9	未定	
成長投資		40	5.3	未定	
		期間中目安	FY22	FY23予	
配当			5.5	未定	
自社株買い			2.3	未定	
株主還元			7.8	3.9	
総還元性向		35%	35%	35%	

FY22 ~ 24中期計画 (Enjoy2.0) の進捗状況

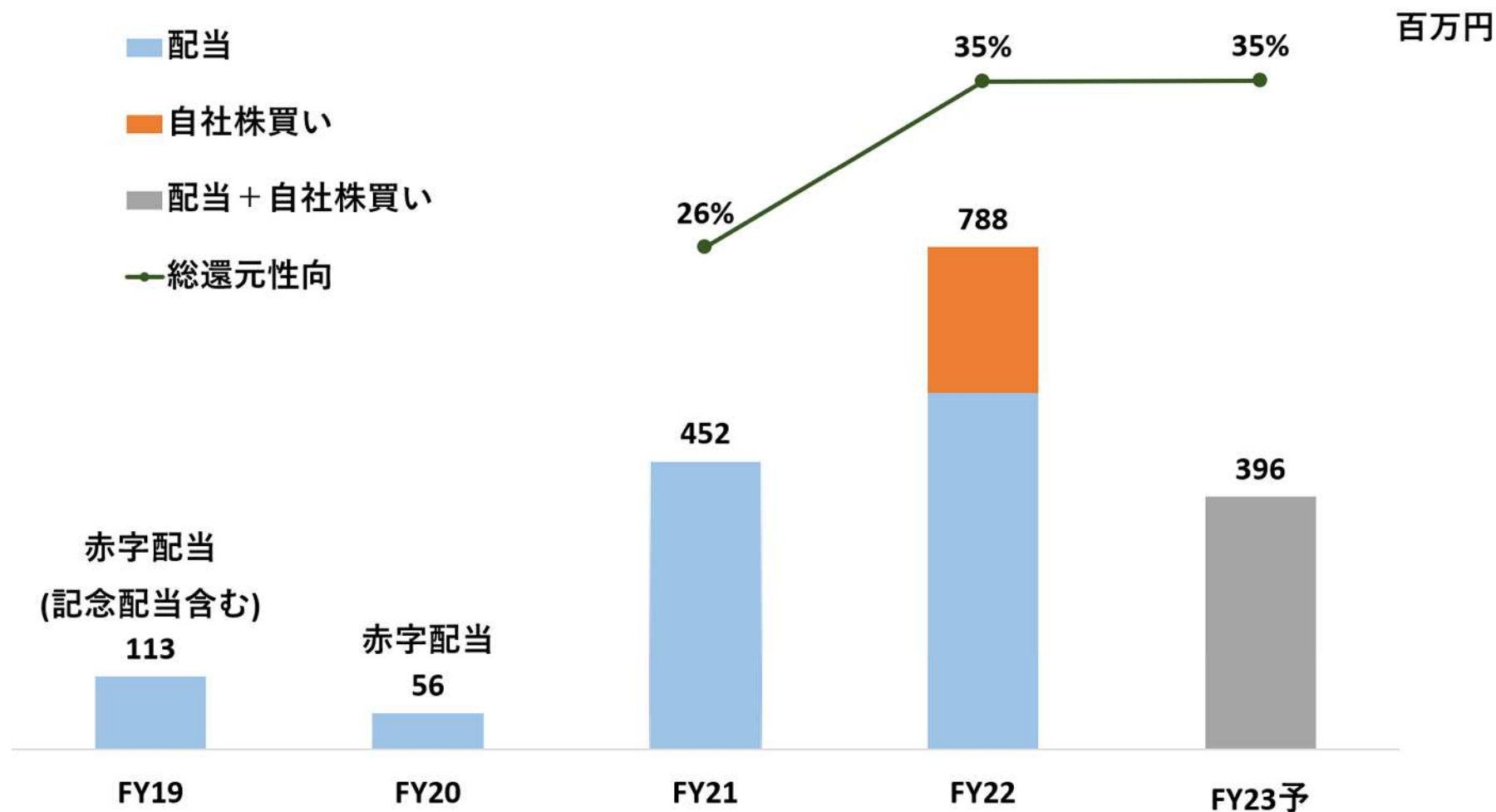
優れた半導体検査装置を世界中に供給することで快適で安全な低炭素社会に貢献するというミッションを果たすべく、4つの基盤戦略を推進中



基盤戦略	人財	3年間で30人採用は計画線。段階的に社内環境整備を実施 地域貢献含め松本山雅FC、立川ダイスとスポンサー契約
	DX	25年度の新基幹システム稼働に向けたPT活動。HP刷新着手
	マーケティング	顧客接点強化へ現法代理店と連携。国内外でのトップセールス
	生産	100億へのストレッチへDX & 工程管理強化。調達ルート開拓
事業戦略	テスト	調達難から長納期化し失注発生。IPM用新型テストをリリース
	ハンドラ	ソリューション提案、戦略顧客への主力モデルの新規納入実現 2022 Texas Instruments Supplier Excellence Award
財務戦略	成長投資	R&D3.4億は10年ぶり高水準。DX投資5.6億を決議
	株主還元	自社株買い2.3億 + 配当 = 7.8億…総還元性向35%

株主還元

- ・ 中期計画の期間 (FY22 ~ 24) は総還元性向35%を目安として株主還元()
- ・ FY23の予想総還元額に対する配当と自社株買いの内訳は現時点で未定
法人税等調整額や特別損益等により当期純利益が大きく変動する場合は、総還元性向の算定上、その影響を調整



ご注意

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。